

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論Ⅰ	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①古賀 寛史 (別府医療センター・小児科医長) ②後藤 勝政 (西別府病院・神経内科部長) ③菅谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師24年) ④須賀 美佳 (西別府病院・副看護師長・看護師17年) ⑤羽田 明日子 (西別府病院・看護師 年)		
<科目目標> 小児期にみられる主要な健康障がいと小児の特徴に応じた看護を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 小児期にみられる主な健康障がい 1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 2) 新生児の疾患 (1) 低出生体重児の特徴、主な疾患 i. 新生児の疾患 ii. 低出生体重児の疾患 iii. 成熟異常	講義	①
2	3) 内分泌・代謝系疾患 (1) 新生児マス・スクリーニング (2) 先天代謝異常症 (3) 代謝性疾患 (4) 下垂体疾患 (5) 甲状腺疾患 等 4) 呼吸器疾患 (1) 先天性喘鳴 (2) 上気道の疾患 等	講義	①
3	5) 循環器系疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 川崎病 (3) 後天性心疾患 等	講義	①
4	6) 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患 (1) アレルギーの分類と発生機序 (2) アレルギー性疾患 (3) 原発性免疫不全症 (4) リウマチ性疾患 等	講義	①
5	7) 感染症 (1) ウイルス感染症 等 8) 皮膚・眼・耳鼻咽喉科疾患 (1) 皮膚 (2) 眼 (3) 耳	講義	①
6	9) 消化器疾患 (1) 口腔疾患 (2) 頸部嚢胞・瘻孔 (3) 横隔膜の疾患 (4) 食道の疾患 等 10) 血液・造血器疾患 (1) 貧血 (2) 出血性疾患 等 11) 悪性新生物 (1) 造血器腫瘍 (2) 脳腫瘍 等	講義	①
7	12) 腎・泌尿器系および生殖器疾患 (1) 泌尿・生殖器の奇形 (2) 腎糸球体疾患 (3) 腎尿細管疾患 等 13) 運動器疾患 (1) 先天性股関節脱臼 (2) 先天性内反足 (3) 先天性筋性斜頸 (4) 骨折 等	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
8	14)精神疾患 (1)総論 (2)発達障害 (3)神経症性障害、精神病性障害(統合失調症・気分障害) (4)その他の行動上の障害(不登校・反社会的行動・いじめ)	講義	①
9	15)事故と外傷(スポーツ外傷も含む) 16)子どもの虐待 (1)虐待に伴う異常の早期発見 等	講義	①
10	17)神経疾患 (1)けいれん性疾患 (2)脳性麻痺 (3)筋疾患	講義	②
11	1. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 1) 子どもへの説明と同意(インフォームド・アセント) 2) 子どもの成長・発達に及ぼす影響やストレスに対する支援 3) 子どもの病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族のストレスに対する支援 2. 外来における小児と家族の看護 1) 外来を訪れる小児と家族の特徴 (1) 疾患罹患による受診や予防接種を受ける子どもと家族 (2) 長期的な健康管理を必要とする子どもと家族 2) 外来における小児看護の特徴 (1) 緊急度の把握 ①トリアージ ②優先順位の判断 (2) 安全の確保(事故防止、感染症対策) 3) 外来における小児と家族の看護 (1) 緊張と不安の軽減 (2) 治療・検査・処置時の援助 (3) 療養生活に対する支援	講義	③
12・13	4. 入院における小児と家族の看護 1) 入院する子どもへの説明と同意 2) 入院の状況に応じた看護 ①計画入院 ②緊急入院 ③短期入院 ④長期入院 3) 発達段階に応じた入院生活を支える看護 (1) 治療・検査・処置に伴う不安・苦痛に対する支援 (プレパレーション、ディストラクション) (2) 日常生活への支援 (3) 遊びや学習の支援 (4) 家族への支援 4) 退院時の看護 (1) 入院生活から在宅への移行に向けた支援 (2) 多職種連携と社会資源 5. 小児病棟の管理 1) 小児病棟の環境と規則 2) 安全管理	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
14	6. 先天的問題をもつ小児と家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 小児の発達段階に応じた援助 3) 家族の健康障がいへの理解と小児の受容に対する看護 4) 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助 *代表疾患：ダウン症候群など	講義	④
15	7. 心身障害のある小児と家族 1) 心身障害の種類と定義 2) 発達障害 3) 心身障害の受容 4) 経管栄養法 5) 小児と家族の日常生活への支援と社会資源の活用 (1) 療育施設における看護 (2) レスパイトケア 代表疾患：脳性麻痺など	講義	⑤
<p>授業の進め方</p> <p>それぞれ事例を加えながら、視聴覚教材などを用いて説明をしていく。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) : ③④⑤</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論(医学書院) : ①②③④⑤</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位 15時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	甲斐 有美子 (元専任教員 13年)		

<科目目標>

小児看護学概論・小児看護方法論Ⅰ・小児看護方法論演習で学んだ知識や技術を統合し、事例を通して健康障がいをもつ小児の看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 小児看護学における看護過程の特徴 2. ネフローゼ症候群の患児の看護について 【事例】学童期 男児 ネフローゼ症候群 1) 情報収集の視点(1) 情報収集の方法(2) 発達段階と必要な情報 2) 情報分析の視点 (1) 健康障がいと小児の身体的特徴の関連 i. ネフローゼ症候群の病態・成り行きと治療、看護 ii. ネフローゼ症候群の病期に応じた援助 iii. ステロイド治療と副作用 iv. 安静療法と治療が患児に及ぼす影響	講義
2・3	(2) 健康障がいが発達段階に及ぼす影響 i. 理論の活用：発達課題論など (3) 小児の健康障がい家族に及ぼす影響 i. 理論の活用：家族理論 (4) 病気による小児と家族の生活の変化	講義 演習
4	3) 看護診断 (1) 関連図 (2) 必要な看護診断とその優先順位	講義 演習
5・6	4) 具体的計画 (1) 成長発達段階を考慮した具体策 (2) 家族を含めた援助 (3) 養護が必要な児への看護	講義 演習
7	5) 援助の実施	演習
8	6) 評価	講義 演習

授業の進め方

小児看護学実習(1)、実習記録(2)(3)(4)、実習記録(8)を用い、事例の患児の看護過程を展開していく。具体的計画立案後は計画に沿った実施を行い、評価につなげる。また、小児看護方法論演習の看護技術につながるよう進めていく。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院)
3. 看護診断ハンドブック 第11版 (医学書院)
4. 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図(医学書院)

評価方法

1. レポート
2. 講義参加状況

領 域	専門分野Ⅱ(小児看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	小児看護方法論演習 (疾病の経過に応じた看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①佐藤 綾香 (別府医療センター・看護師9年) ②平下 理香 (大分県立病院・看護師長) ③管谷 愛美 (別府医療センター・小児診療看護師・看護師24年)		
<科目目標> 小児各期に発生頻度が高い症状等の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害を持つ小児の看護に必要な看護技術を身につける。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～2	1. 疾病の経過に応じた小児と家族の看護 1) 急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期にある小児と家族の特徴 (2) 急性期にある小児と家族の看護 *代表疾患：気管支喘息、川崎病 2) 慢性期にある小児と家族の看護 (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 i. 病気の時間的経緯と急性憎悪 ii. 小児慢性特定疾患治療研究事業 *代表例：I型糖尿病 (2) 慢性期にある小児と家族の特徴と看護 i. 病気による小児と家族の生活の変化 ii. 小児の発達とセルフケア獲得への援助 iii. 地域との連携・調整 iv. 学習支援と復学支援	講義	①
3～6	3) 周手術期にある小児と家族 (1) 小児期の周手術期の特徴 ①小児期の手術の特徴 i. 手術適応と特徴 ii. 緊急手術 iii. 計画手術 iv. 日帰り手術 ②手術を受ける小児と家族の反応 i. 小児と家族の準備状態の把握 ii. プレパレーション (2) 小児と家族の看護 ①術前の看護(術前準備) ②手術室及び回復室での看護 ③術後急性期の看護 i. 手術後の身体状態のアセスメントと看護 ii. 小児の安全・安楽への看護と家族の援助 ④術後回復期の看護 i. 退院に受けての看護 ii. 回復期にある小児と家族の特徴と看護 (3) 手術を要する健康障害と時期 *代表疾患：先天性疾患 (ファロー四徴症、食道閉鎖症、ヒルシュスプリング病、肥厚性幽門狭窄症など)	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
	4) 終末期にある小児と家族の看護 (1) 終末期にある小児と家族の特徴と看護 ①小児及び家族の心理 (きょうだいの心理も含む) と援助 (2) 小児のターミナルケア ①小児への病気の説明(死についての小児のとらえ方) ②緩和ケア ③死に直面した小児及び家族への看護(兄弟への看護も含む) *代表疾患: 急性白血病		
7~8	2. 小児の症状の観察と看護 1) 主な症状と看護 (1) 不機嫌・啼泣 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 嘔吐 (5) 下痢 (6) 脱水 (7) けいれん (8) 意識障害 (9) 発疹	講義	③
9	3. 小児看護に必要な看護技術 1) コミュニケーション (1) 発達に応じたプレパレーション 2) バイタルサイン測定 3) 身体的アセスメント (1) 一般的外見 (活気、機嫌など) (2) 瞳孔の対光反射の確認 (3) 視力検査 (4) 外耳道・鼓膜の観察 (5) 胸郭の打診 (6) 呼吸音の聴診 (7) 頸動脈の視診・触診・聴診 (8) 心尖部の視診・触診・聴診 (9) 心音と心雑音の聴診 (10) 腹部の視診・聴診・打診・触診 など	講義	③
10	4) 与薬 (1) 乳首、スポイトによる方法 5) 採尿 (1) 採尿パックの使用法 6) 注射 (1) 注射施行時の固定 7) 輸液療法 (1) 輸液時の固定 (2) 小児用輸液セット 8) 採血 (1) 採血時の固定 (2) 刺入部の固定法 9) 穿刺 (1) 骨髄穿刺 (2) 腰椎穿刺 ①穿刺時の固定	講義	③
11~12	10) バイタルサイン測定 (1) 直腸検温 (2) 心拍測定 (3) 血圧測定 11) 身体計測 (1) 身長 (2) 体重 (3) 胸囲・腹囲 (4) 頭囲・大泉門	講義 演習	③
13~14	4. 様々な状況にある小児と家族への援助 1) 活動制限が必要な小児と家族の看護 (1) 活動制限の目的 (2) 身体的・精神社会的影響 (3) 活動制限中の小児と家族の看護 ①小児の発達段階に応じた援助 ②小児の日常生活にかかわる家族の援助	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
13～14	2) 隔離が必要な小児と家族 (1) 隔離の目的・方法 (2) 身体的・精神社会的影響 (3) 隔離が必要な小児と家族の看護 ①小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助 ②家族の面会や付き添いにおける援助 *代表疾患：麻疹、水痘症 3) 痛みのある小児と家族 (1) 小児の痛みの受け止め方 (2) 痛みの表現方法 (3) 痛みの客観的評価(アセスメント) (4) 痛み緩和への援助	講義	①
15	5. 救急処置と緊急時の看護 1) 小児の事故 (1) 起こりやすい理由 2) 救急処置 (1) 誤飲物質と処置 ①化学物質と誤飲 ②固形物の誤飲 (2) 溺水と処置 (3) 出血：鼻出血 (4) 熱傷の特徴、重症度と処置 (5) 小児の一次救命処置 (6) 乳幼児・小児の意識レベル (7) 吸引・酸素療法 3) 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和	講義	①

授業の進め方

疾病の経過に応じた小児と家族の看護では、小児看護方法論Ⅰ（小児期にみられる主な健康障がい）などの既習知識を活用しながら、視聴覚教材を用い、代表疾患の事例など具体的な事例を加えながら説明する。

小児の症状と観察については、小児各期に発生頻度が高い症状の発生因子とメカニズムを理解し、必要な看護について学ぶ。また小児看護の看護技術について、演習を通して学ぶ。演習では、事例を用いて、小児の症状の観察・看護技術で学んだ知識を生かし、アセスメントを行いながら、バイタルサインベビーを用いてバイタルサイン測定、身体測定を行う。

様々な状況にある小児と家族への看護・救急処置と緊急時の看護への看護では、小児看護学概論で学んだ小児の特徴や、小児看護方法論Ⅰで学んだ内容を活用し、具体的事例を加えながら説明する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) : ①②③
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論(医学書院) : ①②③

評価方法

筆記試験